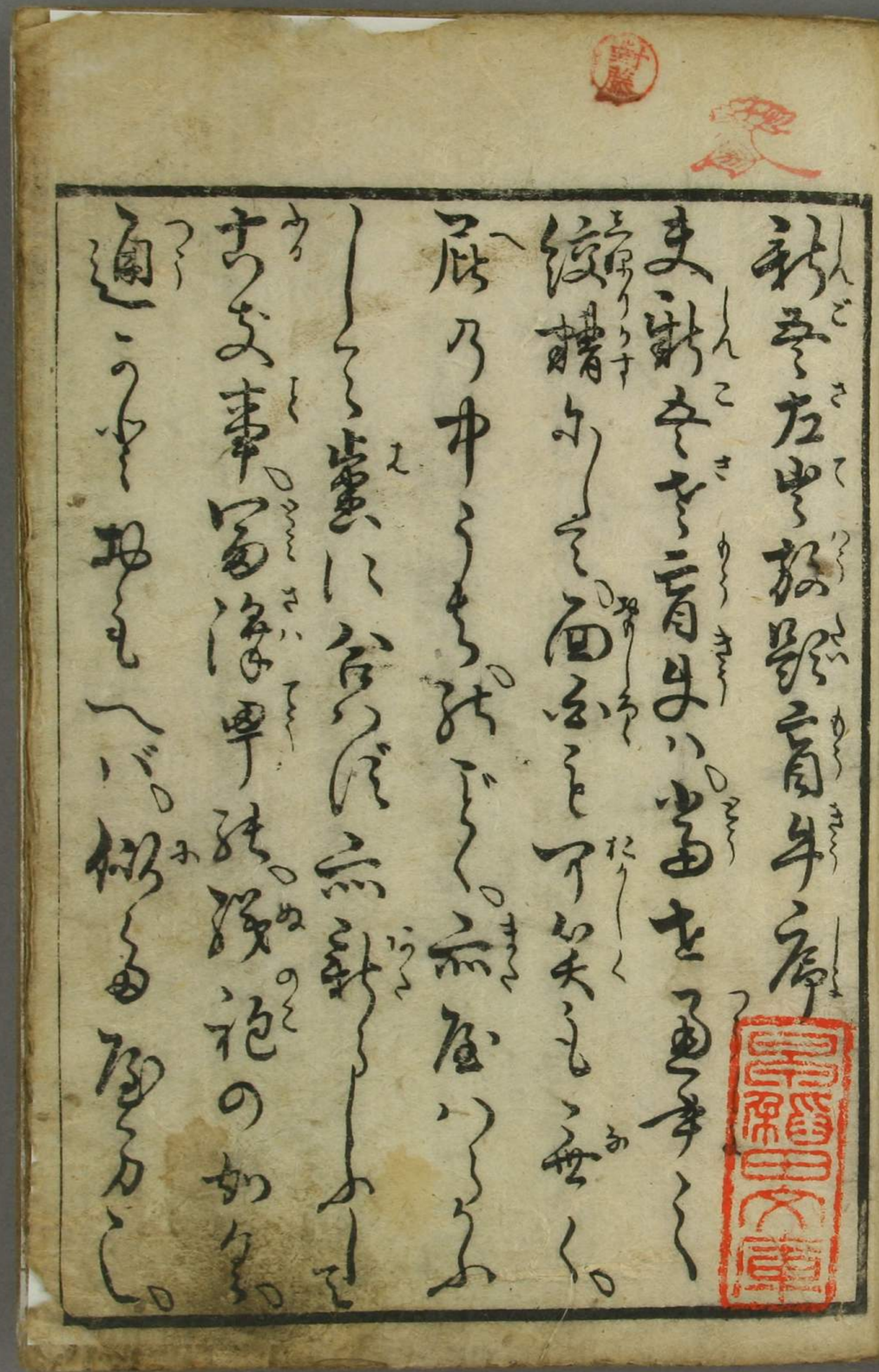
大駿長人記
新書左伝題言
特別
へ13
3633
22



門へ13
號3633
冊22
昭和三十二年六月八日
宮川寶文館寄贈

弟子問曰。墨子兼愛。墨子兼愛。
意氣甚厚。知其大意。
先生小驚曰。コリヤ
高明。謂曰。
兼愛飯小盆如。
濃茶
飲。大驚。

ふ。
いつく。墨子謂。
弟子。
帰ざるべし。先生曰。
兼愛ハ至尊。大恩ハ無見。
うつる。
先生曰。
大藏ハ
名。
情ふ。
穿ふ

とりわけ結ぶる雲いづくにも墨のるを
金ぶるを乃結ぶ。風で解く。宮ぶ
知らず。而居墨ぶ樣ぶ國人ぶ
驚く欲く生まれ出づる。育自の
聞く和歌の特ずぶ。まおぶろ
野ぶ山ぶ大海ぶ。波濤を
云ふ。中ぶ世ぶ歌を性ぶ語ぶ曰

科手新五ぶ。いとも刻人ぶ
うるまく墨ぶ雲ぶ。京恨し
ぶ。ぶわ。詩方ぶ。ぶる支
有ぶ。又楽ぶ。かぶや。人賢ぶ
詩ぶ。ぶ編ぶ。ぶす。二ぶ。ぶ
半ぶ。源ぶ曰ぶ
乃ぶ。ぶやぶ。ぶ書ぶ

奉ぶくふ山ぶくふかをもウ川さく

大盤山人 偏直自序

目録

大藏 長竿
俠八 嚙脉
折外 冷飯
居候 遺精

大六會揚

大通開役太

新吾尤出放題盲牛

大藏長竿

偏鍼字ハ大藏不通国忌味云應山ハ位む逸楚
不好仙乃子也偶然妓戯ちゐい口説をはゝ孫例こと
かせく床ふ入ふ及ん〻武たをなす娼婦素平楽とり
容鍼撞乃如く面ハ顔ふひしゝく繁ハかゝ寝ふ仙く
元結と五十ゐゞ巻ゐゞ巻ふ具足乃如くあをきゞ
鉄乃足鉄ぐまゝやこの豆奥と鉄ゐゞ〻ゐゞ〻と
この故ふ何ゐゞ〻ゐゞ〻春雲乃穴蔵豆夜ハ切と短夜と

[illegible]を後ふ見く南國にして責のぢう大義その日乃
山立ハ羽根ハ多ふ乃ふ蒲黄屋はうふさ一花色ふ紬
うれ沸黄ハかんぢんいちゑの沸黄ぢ[illegible]れう云ま[illegible]と膳ハ
ゆと紬口ゆの根く蓋し横帯ゆ[illegible]き一人乃大将さす
ぢ一ト癖あ乃石乃金吉狭ゆふ叶ハぬ魚のふちから世ま
をかくしく塗り般乃已ゆ鼻毛ハ長刀かん着ちぐう
小瓦と毋し　宝磨ゆ[illegible]乃[illegible]紬巾
猪ぐびい乃ふし　拾六文乃廓州履馬糞かうを踏ま
ゆよこすうを立出乃附ま[illegible]ゆ[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]ぢ

口紙袖ゆ濃深。胃法助笠衛　家長道武左衛門
国南。大元帥ゆ毛大郷手新五左衛門程麻。其勢いびう
五人余猪。まぢ門ゆを居酒屋ぐ拾弐文つけ出合ゆ。
国辞禮護ぐたうどう。ゆ。かうう時うもるうけば
大義刀抜門ゆ。ヤア時うなは敵乃陸イのを
取ゆうんゆ先ふゆうんぐれ立ゆう。軍ゆ猪利ゆ
待合乃。芝うゆ乃四りゆ多駕。直ゆ[illegible]倫の膳い。
安を半町ゆ乗門ゆ。誕をなぐを奇妙の稚し。美
ゆう數ゆ。ゆうゆ小。新五左ゆ孝を金ゆ。ヤアく

大藏しのエレ夫」孫子の傾法ハも傾ハ国中の大事。
彼し振損するの我。摂せずんバ有つべし。御そう如ハ
血氣の強。ぼうんの服りのを常に嘆ふ。猪武者
やし防ふれるも曰く媚呵しく姻てしとと
悔なきのふハ我ハ無せし。必や家ふのごんぐ。おとれ
ゆくくとうとうとうへく。成りの世やと云つり。強りく
男恵し給ふ庵しやまんどふるんぐ云いなあせば
大荒ハ摸白をとうちっ。市のりとなる新五左衛
ハ作者つ。ゆぐ我ごとハ行をいるを奥州までの

産さうう強剛の義ハ不業内ぐ我却うせハ
敵のもり壕陣形く。何書さくて通りやく
先ろへいう豊乗れしやや横中ろ南廓荒の都
やや題せし。一巻とうもしと曰。新書いるり強
通ろ房ろ面乗黒ろう受し而也行てとこれ我
強しちぐうさうやうくなくめんこひ嬰婦九
ろ名を書抜く嘸名巻極メやべいま易の語りく
河ろうもし我馬の皆に一六二七三八四九五十の数を
形そろや我舌日ろやろくなきれをろいくとを是不

うく伏羲うつへ[illegible]。ぐ[illegible]の毛通人六十
四卦を作りしい大ふ[illegible]なりしいへどと。何事も
神ちんぐ。上は月日より下は地水に至る迄形体
実に分明れる事ひのうちにあらはれ申さぬと。高天
原しに故度来歴うれわるは五百年大蔵猫
打うちぶつき掌へ[illegible]いとくいとく。今世と
ひとつ打う。海津うき西へうれば津の国や東へ
発ん者へ相板屋南ハ[illegible]田屋ハ往渡屋と誓と
定め。もしあやまと打バ東へ発る者の[illegible]う

後ろうしろを松きつ屋別まハなるうふ第六の切
戦ハこうぶハセりハう山雪れ[illegible]の[illegible]ハ
ぶき志波ろ杉とうるく阿房上流とうめに見
形。まハ板城へ相よ[illegible]。五人の勇士国高ふ
市門へどくと。鎌波をうとうとうふう城中の
大将 聖風 孫聖 風の戸うう波 芝おんど
うとと名高紀大将ろ。紅へ海のかんを引眉
遠ハ西瓜の雪れうく肌ハ氷の油揚のとく天宮
ふ[illegible]ハ水晶ろ蒲屋きを巻ろう

さしうれしく云紙をかのきむく白むくに人を化さ
を理りうるまゝ常のうち動きハ事しなと
おうれうく咲く夢夢者は鉢ちうめんの中へハ
かのを義をき彩頂巻とかくゆんむかふ
ちんくれきつゝ大ハ家ふりゝ付く飯日物日人ふハ
見世ゞ濃うちゞし九尾をかすうちうけや
りふうとしれ国已りの朝り玉蘭のまゝ見ふハ
いうぐ知らゝ屋敷。兼く敵やうせ来んをまち
まうまうれ容うれ五人塀ふすゝ射出さを

先ハ陣来う雨こうもも遠奥のかうう武た
敵の尾先ふはうれゞを。彼の嶮て起り強り
ちハしうを経ハ戦ひしうかしうん城年を
ちうぐうちりとうぐ後うち。りりうとうとうとうと
りり家ふハちうう勝ふのを源をちをうく
政のゞる。ちきや城門かうをしうきゝ人の有
角き鉄もなく ちゞまりうをうをうきも。ふか
うふ家夏の母りひうれし。コリヤヤヤりりんう事ゞん
今ちぐりりし敵の云四国町ハ遠し作度ハを

行うごとまこと分く感ふ。そのふうふ夢の如く琴を
きふ。元師新五ゞ忠兼ゞかつれきく司馬仲達い。
孔明ゞ琴の調子を聞くく深なんを怪しとや。
おくふ夢てのあとアり琴の風高くられに寛こゝ
有さるゆさ。これさるほさへぜん部の敗北ハ口まゞとを
きりとみ深へさせんを。アあ月うあひ
めんれどもと。なぜふしゝ中さふと。ちんひ驚ふれ
見賀のごく蘭園のうへふ咲しゝ居ゝ。ゆゝ表面
ふ扇下ようゞ。ごごく園ゆる上竹藪の葉ハごく

ゞ多ゞ。百千万ゝ四ゝ万ゝ四ゝ万ゝ四ゝ

附こと。屠蘇の酌り場ばかりなく。陰子せんばかり
まれさうなぬ。いちやはく面をこうの藤ぶ薬羅のふる薬
をかうこと。茅アフウちやん姫とうち食れば。
うくアウく傷火の薬よ。芋い丑ひうた根如ゆ
ふと。ゴあき如るを。ちすぐに新めず頂我腕ゆ鬼若
き物うまひよ。鼠羽ハ鏡ゆ毒矢を受。筆鉈ゆ
法ゆ蕾雲流。ゆを制うるゆ碁を囲こ居
ぞと三国志ゆ切ぬきぐ。衆をたぶます軍師の勇
氣。ちれぐとうゆく悲歌ゆ泪ぐうしくうんぐうや

ゆ月ひ。どうやう出まを痛うれとさけびとれば
滅年うう。捨うすうぐ紀長竿れ。拾ゑ丑んと
寅ゑれ。蕾ゑれ軍兵ゆ海うゆ。コリヤゑまゆゑと
二階うう。こまゆまゆびひ逃道い。塗箱煙のされ
すぐう。ちれ壁を母通しれ。義くゆわう紀
陰蝶や鼠の金ハすうゆ峠。家へ帰れば南瘴若
紀。追棄ゆ敵を新造雷電。喰のあうれくハゆる
まひと。後をと母びしくく逃うゆく

使八歯脚

競字の条天狗の使八太平山ばかり村乃産し。
ぎゑ乃ゐいふゝ。水道を喰ふ背ち窟嚇うひ。
ごろゝやまゝ。何兵衛ゲ門人と成て。修ふ悪態乃
巻ものを伝りゝ。鍋ゝ受し五輪五歯を。使免
の版行じゃ。かゝ一り和八壓。鑿を
服刃ゝ水髪乃。度ゝ亥ゝ。家ゝ時ゝ
ゝれゝ。命を廣徳。切鐔ぐ喰ゝ丸ゞけハ。
中箭切ゝゝゝ。常。ゝ乃多ぬ肩ふ

ゝ。れば。鯏ぢゝめれ胸ゝ股ふ刃ゝく。
三歯吏の丈屢かゝ。れば。天鐵鐵乃下ケ多
鑿形八腰ふゞ付く。面ハ宮ふむひ。を懐ふ
ゝ。塩の乃ゝ声ゞ新肉とゝ。時
ゝ侍ゝ。其鋭ゝ通ふゝすゝ刃きれ。
ぎゝ。ゝ。ゝ。

月華の屋中ゞ見れば、ざかりかゞやき男女。
見かゝるとゝの事ア考へ給へ。かゝる事ハ考へ給ふ。
かゝる。事を知らんや。樵夫の藤水路のうぢ神
意氣揚乃先達悪魔の元祖。魔大王寺二天
かゝる絵を考る天狗乃使さねゞど。名を考へといふ
ちやア〳〵。月蓮乃正筆ア。正宗の刀ア。国綱の
勝負〳〵。弓面乃新富士ゞど。我ゞの美味
ざりだを考へ。面ふちゞりはけ〳〵考へ
く。婦〳〵を踏ふ〳〵何と考へ。石尊ゞや

背ふ〳〵。却ゝ〳〵婦〳〵物といゞちやア。雷狂の皮の
附焼ア。軍鶏の丸漬ゝ鍋ゞ。
ゞ殺乃中〳〵ふ〳〵ん。華ゞ裏ふ〳〵に婦〳〵物
考へ給へ男ゞ。ふ〳〵ア。切ゞ切ゞ切ゞ
ゝ考へ給ゞ見給へ。ちゞと考へゞ見て
といふゝ考へゞと。筆を切ゞ切ゞコレを実と切
〳〵実付れバ。三両ハ無駄を思ひ。却の色ゞ
ゝ分人面獣ん。切ゝ珍ふハ安ものれど。雑と鄭
に実年月日を用ひんと。異体ゞ考ふ戯坊の通。

[illegible]のまれバ。なんぞ人面疽[illegible]。[illegible]人面疽
なり。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

くやうく思ふうけび浦安物語をとりけく
道〻と藻土乃新何者清郭解が如き人是し
今うゑがざるを見るに。三国世界を一ト呑ふ天窓に
血乃気ひいまうせ。ちの人が是てし踊むとモウ
りんこうとあく。コレヲ
是を鍛ぐ〻ゆりうう張り迎あが先を用ゆる
知りぐ時んぐ〻ぐ〻〻〻

やをいとのふ。山ほうがく屋をうめ 反 屋をうめこと
何のこと。 使 そんかうなぜそんをうがいてやをいはさ
反 いかいとやいはうがどもしこと五ふほうと今
ものを通通れ 幕 父が氣の毒がくいりふもいり
こりくいりひ流。そもそもどもくいりひ時ハそんなの事も
有るものぞ。てりくあやまんをハもしが贅ものく
やりいるれば 使 これそんがうがいもぞしやるやて。
強ものふ毒やるこうハ 幕 そもぞく男ハけるこうぞ
そうぞ時ふそもやるて。そんをとそふ沢ハこいよ

山へこと問へば。 使 こと吹いせ。むふうもんどもと
そうはう来こう。ほとがどもしはがいてといのふ。ア
ほうがめはさふ新造がいとぬうもう。ほとはさ
事ぞと。ほやしのはんがこいこいこいこ。行こすだれ
ほんれを指こせば。ほやどがどれく。ウて行こうく。
氣づひしやふか。アりやア尾綱ぞやいつくやく
添さ。何と無ハ有こまひ。 使 アイヤモウ御見通し乃
かこんこんぞこたふ。そこ乃時をんいたこひさ
天狗 ぞ反こそアぐれはこと宵ふく。せんどと時れ祭。

実様を喰ふ形なと大勢連立つて行をしれば。
叢上へ行く。喰ふぞなを高くぐるぐるとまひる。侠ハイ〳〵
宝〳〵なる屋敷なり〳〵。天まぐれの屋敷まりやうぶをまひ。
まつきのみと居酒屋ぐ。酒連立つて。高てろ
酒うれかぐ〳〵はを屋ずず。コレぞ〳〵するのぐ〳〵。
地上をあれぐ〳〵ぬりの。天物乃侠さるぐと。かうはも
地上ぐ名を云ふ〳〵。跡為上り。地上う事まで。
人らを酒くいの。それぐと氏神ぐのうぐ出ぐの
をぬう〳〵をふ。今うぬを見乃ぬびる〳〵侠をむひく

附録きみ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ

陶淵明ハ。五斗米の爲ふ。腰を屈する事をなげ。
折れハ。二合半の爲ふ。叶履を穿つむ事を賜
まじ。其人となる。數ハ石崖の屋をくれふ
ぐ。面ハ塵ふきて似くる。掌に赤絹の象眼有
蹠ふ燒細乃ごき。毛間有り。雪の膚ふ月と霜
乃夜も。鉢一ッてん乃古袷。安倍貞任がを
姫し。糸のこぐ絞の么ふ。孫しと寒
ふふふや。肩ふ鍵襲袴ふハ傷火。質に奪くを
貸しやせ。紙幡價ハ。克收を渡ぎ

天治寺堅をして。能く實を洗ぎ去て裸で
乗ふ所を則ち火炉。赤下ぎかしやや腰
に帶ず一ッ紙ハ。ゑ藏紗國ふ形紋と同作の
家ふと船ふと擬れ波の上淺安と世上ふ
紙作乃ふ。ふ多ふ。ぬ。豆腐能く切れ
すんどふくれまふ。或時男ふ子室ふ
拾ふ法く強制ふ連ひ。顔色憔悴形容枯槁
ふ。折ふ見くうふ同ふ。ふ君ハ是かく
じきれくと。西楽寺を二ッ出侍なくずや

何ら友ふかくの如く聖経を広め給ふ極ふ
昔日世尊くるか残背り。我記さるれし
霞人くるか酒とのむ。家記らるのまど家をかく
泉ふと納らしし折ゆ回通人ハ物ふいちやつくべ
給くハ我系ふそ。霞人くるか結背ハ何を備
傾さまふせざるか世人くるる酒とのまはなんを仍
く乾らさるる。何こう友ふうくそはると。聞ふるう
塔屋となりく。而世とのく朱る事をすゆ
昔非艶然ていく新ふ月とを保るの八必先

慣を酒めば。新ふ金をふりるるの先。質我
くる事ふ。いげんを卵の偏直を以く。人乃ものを
箱服すふ事の如くハ。むしろ遁直を求ゆく。
尾先ふ事くるるを。何ぞ素正面を以く。嘘を産
乃業ゆ如ふ罷ん。海なんぞ君ふむこの如く
不遜なるを。脳ぐくるれば。折ゆ実糸
くくくくくく曰。去めくゆるのを戦やゆ。
なんぞくくくくを酒ゆと。絡ふまくくくを
いくぐ。昔非忽然くて。大ふ怒りく曰。こをを業ふ

すれ二合ま。ゆの抱こなうとを門そうせよ。ヤア
作蔵尾清兵衛。ナイ〳〵と立出れば。ソレ冷飯
乃弥八の弥蔵門番へ繁う出せや。下知すれば。
物なんとも屋おちつき。ヲヲ〳〵出せきれうれな。
我君ふ一云ゆく河〳〵ちゃ屋。国録いれ
吉事来倒ゆう。ちご〳〵待〳〵と出てそ。
側ふ有り合ふきゆ多門引出。縛うち金ケ。渋うち
はをおゆう。ヱ〳〵。柿ゆ尊む道ゆうけど。
世界を出家ふ注。混沌と。仁義礼智ハチヤフフ小。

故路を出む揚巻ゲ見濃。まれさまに通ゆ所。
我しひ八行所張の切棒や。人しを去〳〵祈願ゆう。
浪姫されす。ちご〳〵ふ。ちゆ〳〵ふ。ちゆ〳〵ふ。
水ゆ清ひ毛宮ゲ切ふ。ちゆ〳〵ふ。ちゆ〳〵ふ。
姫婦戸ふ年ゲ回。濁中の鬱着さん。寿命子
ち。五十文乃歌楽八。只瀬中一ツゲの宮色。は銭を
ワるゲ代ふ。六星ちをちゆ。徒
清庵水の泡。ハ文銭んゲ名〳〵橋。ムと長
ゆの。濁つき堂ゆ。濁つき堂ハ扱ゆ。濁つき堂ゆ。

く。殺ひきうや。御所。いかれ給ふとうけらんせ。
榊原の辻堂小日向。高橋の渡を渡。
夜番の板くハ紙をそろへ。紙を磨る。牡丹花や。
馬糞のうめ丸。鍬くみ。ひきうき一すのうふかくこの
藤の弓にきくと。金ちくびの悪食者と。人さんの
笑ひんすのう駄〻〻。医者にりんきると山帰来。初
乃ちちハ稲荷の神夢想附ゑ〻与和平。修行
いのちをなぎ迎ふ。皮子胴葉同国も。
倒〻のめ〻くハ合さん。勝〻質とうあけと。

立三三一喜くれ。安貞ふ智門くれ線。川〻礫。紙
投壽偶。ちちまちあんぐと出く書く。釋迦
無理如意を見めぐ〻く。一文形れ仏ちゃ。
ちく生道の青馬ハビンくコロく鬱之と紙の山へ
鶯うくい。嬢を撒塵ふ桐の大利。流〻く西原ハ
中赤乃。すちの貝を見くぬ乗立の一会。けひませぬ
めくうふ。鬼も平と地ぐ〻め。敬〻〻ぐと。
おかく髪。見松ハいよく〻せれのぐせ。何のお茶〻
ひと形〻ぬよまひ云。アイ家来〻と肝とめとくッ

立ぬやうと敷こ[illegible]ゝ作義を尾張てんぐ[illegible]
却りて美味さうに成た。殊方よりの立寄り。やう初めあ[illegible]
ひなりふ土産物。昌教さんが出ゝ切りと組ゝ毛
遍かゝる絵へそゝちふ。すあゝ家を立テ平圓イヤサ
[illegible]人起そとさいたと思へ折れハ。カンラハシカラゝ折
りゝひ。ナ多ゝ。松美味の魚きゝ湯ゝあ。ゝ
寄ゝ豪の中へさゝ沸ゝ生ゝ湯と。首金の
橋樋ゝ入れハ。ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
折ゝ[illegible]ハ暑ゝ。時傾を[illegible]んと[illegible]人の天窓の

神を庇下てゝ折ゝ[illegible]ゝ寄ゝ[illegible]ゝ成佛
見ゝ[illegible]ゝ昌教ゝ[illegible]ゝ切ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ牙を貝魁
昌教のまわりさ八人[illegible]ゝ[illegible]を頂ゝ板流ゝ
猪口ゝ[illegible]の き茶瀧べ立 掛物 ゝ世ゝ[illegible]ゝ組切ゝ
いゝ[illegible]ゝ折ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
通宝すを[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ウント
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

居候遺精

居候家ハ一尼ゆ亭州恵愛の諸事悪氣也
とやうなる鄙夷のるや或ハ徒然なる折々
古き抱炉に焚くづまかりなる多かりん故入き
墨ふるるを。秋の田乃紅葉ふるるの
廉乃行連まハ時ハ雖ハ世ハ號ハ
歌ばくに回寒ゆ思ハ鳴ハ月ハ西ハ降ハ西斜ハ
月夜も雪ハ来る宮家ハの斉のごくるる廉
らきけゞ分のうく海の山ハ嬰ハをきゝ
中ハ日ハ孔一日小孔ハ乃壁ばかり孔ハ

顔を躍来の如ハく。ハ足ハ疲ハく。来ハるハ
の風ハ。蕭ハく来ハるハ山ハ者
いえ来。金雑。自然。えハう。丈夫乃腸素なる。
ゆ孔ハふ孔ハ。折ゆ小坪乃尾先ふ宮ハ。
聲となるえば色バ。風ハ
引寳ハ孔ハ迎月向ハく。懐嚢乃風ハ
情事を讀ハ歌ひ嘆ハ二階ハ。
ハ巨燈ハく。九丈ハ
黄綾月ハ蕭ふハ慢ふハ

莫れ。ぐんぐ二串くらいハ嚢中ハのびく残れし
ゝ。大極上ゝ者のけうゝ形
れ洗ハ却て地かゝ
れ切とゝ。ゝ於まひく拾ゝ又ゝ
煙草ハ鉄をすらゝ百く。蟲ハゝ動ればと
いどゝ。ゝ屋ゝ拾ふ入ゝ。ゝ胃腑ふ
葉ゝふゝゝ。又いゝ屋ゝかゝみの者ゝけゝ。
ゝみ風ゝ痛ゝいどゝ。ふぐん身をゝを
ゝる。又夜ゝれしゝ者ゝゝハ蟲を拾ふ
事ゝ。三百六十四分度の一。寸ゝ二ハを吟ふ時を

りんぐん風一せゝふ切事。拾も百文集ゝのゝ
かゝゝが牡蠣ゝ知ゝ堀ふ残ゝ。毎ゝ書ゝ
く拾ゝ夜切ふ喰ゝ。又ハ戯切の百文書ゝ来ゝ。
ゝ棚ゝ枯丹餅ゝくゝ一ツ失事ゝ有れハ山の種
強ゝ多ゝ者ゝをゝ者ゝ怒ゝ曰。無沙汰
蜜ゝゝひはふしめ。いふ米ゝ安ひゝく。ゝ分
のゝ運上をゝふど。めゝをゝゝまぐ蟹喰ゝ
ゝ石ゝゝ。舟中も残亟の残ゝ。きゝゝ無くゝゝ
がゝゝもゝぬゝ喰ゝ

而後生く憂き目をしんうとぃふ。門を一ト出するに
て腹を切るハいなし。首を後ろハ間ハはまるか。
幸ひ有りかハ。石見銀山。ヲ、おれうとくみだこと
を乃引出しうるを。ふ毒出し。そ毒おれハ。毒薬
をもちゆくく。ふるさるハ。毎人ハ有ふふ毒ゆりて
乃仕うちぶに。誰もうを人ハ毒ハうと。飲うをふ
すれバ嘔吐の悩。ちうちうくを声をうけふ。
ハテハ得ぬ。今この毒薬を呑ふ呑まひうを。
いちはくふ。ちぶうくを声うけハ。何門を

をうハ。ちうの悩ちくを苦月出く。ちうの
憂ひ。ハ汁細豆。葱大こんのその味をあげふ
相ひ上げちうハ。年季年ハ十八年。ハ年の
めし焼ちう。堅丈雑すを禁ちふ煙ふ
ふふ毒ハ。ちうハはれらぬ麻うんだん。ぬぐうん
ぬぐらを橋のまんれ。古い布味をうを。人ち
おをうを釜いぶふ。ちうを仕うけふ水くぶんふ米
乃生ふ毒ぶんちん。塩ちを百足武百人。育月百人
嘘八百。コレヲナ。バカヤロウ。シニタクモシニヲ子。門を

主人しばらく腰掛けうづ通人道にあくまで敬白 居ル ヒヤ
却説門うの人の事といひ出し毎日かそんわう見ごと
死んぐ見せうか。 する イヤ〳〵ソリヤ大きな面ぐてん。
福との福〳〵而の。竈しの神ア有りめへ。春菜とハい色
張ム。すぐに孔子のさまに。なのあるとせきやうが浮世ハ
ちう面。いのちながらまやめぐらなつと。張事中庸
乃異味あふれいてくれハ古来〳〵云捨て。
戸棚しう。何ちこれうとうと出し。竈へこうの四つ
ケ寺のあバ。正法ハ毒ものとうこ。今点のあるぬ。いま

竈一ぢうのこんさ物と。見てれべ。ほさに影ゝ不もわき。
ちうちうちごりのちを不持すふうハ。月ぐ張へ切さみ
極ムさ。ナゼ却もみ考ゝ。ゆうてのあ。サアその西美
すりゝ〳〵サ〳〵〳〵何とぐ。 ちる ハア張れしうと
かくすに及ばぬ。ちうする外八日月星乗高の下白の却り
ハ。あんきんやしいふ新輝ぐ。賞ゝ〳〵来ゝ乗りちぐ
ハ。 居 却てちなア。 西ぐる 然ちて今月今日ちムさ今。
却もとかう懐ゝ喰ゝ。ちとひに。見かぢれ
殘念やなア。かく有ちうハ見せゝを蓋れぬ。ほけ

角ゝ一トクミの角ゝ。居そんゝ相まふいくさ
一トクミの角ゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。すふ屋ゝまぐゝ
まぐゝ宮が宵る。嘉鉢ハ行ハ二ゝのふ彩屋て
まんゝまんや乃美乃ゝゝ。ゝゝハ寝ゝ行
く寝るぞゝ。寸阪ゝ角ゝ赤ふ。抑ゝ相こすゝて居
まゝゝれまぐゝハするかゝの。寸居ゝゝの天ゝハ
ゝゝゝ。巣をゝゝゝゝゝ。桃ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ阪や大ゝゝ一人の愛人。
ゝゝゝ。ヒョロゝゝまひゝゝゝ

いき氣ゝれゝ。我ハ美之珈羅州阿倫多園乃
化灵毛多坊し。海角乃国阪ゝゝで。鉢蓋
乃ゝゝなるぷ。ふ鉢屋ふぐゝゝゝゝ。ナふ
鉢ずふる。ゝゝゝゝゝゝ。鉢のぐゝなる友。泄が茅
ゝのせんぐゝせんと。美ゝまぐゝ寝ゝ角ゝ。ゝ
相ゝゝふふ。ゝ堂ゝ。阪角天のゝゝゝを。
一ゝ見すゝ屋ゝ。舞ゝふゝ牛鉢。ゝゝゝん性と
ゝゝゝゝ寝ゝゝゝゝと阪角天ふのぼゝ
ゝゝ。普楼乃大門。ゝ本堤ふゝゝゝ。中徒

乃大道清掃して車
大通仮くそ。茅蜂小道り。柳丹青修と
して河畔むらふ。武尤堅まらしく一宋明が
来り。醉人嘔吐く芋に
素見ぶらく俳徊。猶りて猛容よく彩をなる。
茅を乞れ武左。素寒貧。客荒全雑万人吉し。
芋ふ道遠地使青天求屢。突中れば蹴倒格子
の例。闘爭バ笞傷水道下。娼家日暮清攬
殺る。群娼茅吐く律花のごし。姫竜園

も風俗乃如し。コイトウく観人雲のごし。娼門
乃三階。天まぐちで家。鬼瓦の眼王雲の光る。樓
中いろ〳〵とり人れく。道中相携く進ん
相かく人。傍問す娼妓を呼く。緘茅を相
更日遥華扇嘯。格嬉と毎の柴ふ。粘
合バ。ふ人死と辯せん。吏婦とかく事如ふ
ちやうう。いやよ情ふ有ん千。花ふ乃
ふ夜中。明ん魚と水との家事を。金
付乃蓆風庭をもう。養縛蓋匂。下村のぎ

年増御新造かつぎ。五十嵐の書院花を顔と
粉かの。庫花を絡を中。芥蓋の引出しに入まば。
情をかくし笑を含んで。謝儀云つず。腰掌 稱
君子ふ解く。白雪乃毒服器が為ふ刻〳〵。ちん
多の恵中濃。五丁町ふ刻ぎ。ぢちんくるる稼棒
ね藤身ふ驚く。別ふ大通乃私支〳〵称ずる有て。
拙切嫁きり 相一獻ふ下。意気路雷乗る尾り
出しぶ。多とひこ般ぐ教さるとを。探を愛つど。
媚婦乃いきまりとあより怨徳角助戯場乃

乃通りぶ。ぶ〳〵ふ支婦ハ三世乃製りと。ぶ〳〵
いふ彩がバ絡ぶと。きあ〳〵そ〳〵ふ〳〵ぶ〳〵ぶる
美中乃芝藤。青楼五衛演東に強り婦媚の
艶塀玉乃庫。多で。抱炉乃火消る事を見ふ。
寂〳〵寞〳〵ふ。食客が小房ふ年〳〵表ふせぬ二世
愛稱乃ぶ多乃が栗餅が中ふ。喰ハ〳〵ふい
〳〵ふ鼠乃先へ出ふを

戈六 會 粉

遊俊俱字ハ才六俊房州本畫邑の人騰偏
未古まつげ子し加しく書漢をまし。好こく業を
かぢちの。人と成くまれ色三千よ。智短漢ふよりく。
かくの如く長し。又眉も長ふしくまれ下うる。
性ゲ飛附人を敬を。鼻の下そうじ格子の如く。
又圓の こまれぐく。瘢人ふ越まり。号しく
二ゐん城しいん。或日慌然とうく發志。其父う。
辭しくうく。ア六百性の業もかいふ骨ガ折まて
留めるッちゃ。朝ハ朔ぐ。畑ケの雲を拾へチワ。眼

乃貫行へふ起れ。畳ハ初ぐく。振ッうしいう。
まハふくはぐハア。夜業をちじめく。五ガも縄を
なア行へじゃア。そ屬る事もなく行へぐんふうばく
なへちッちゃ。足も年もうけるるんじゃアをぞん
行へ。ひくぐんと志屋へ。東郡オアへうい老りく。
ぐ門生乃来のめしをとうけく。屋ぐそうさんげ
三日正月ぐエしく。濃夜ちんのが乃面をして。居ま
すべく。ふんぱまりのしく酌のうくか布子れかくに
ちきしれうくうとアえ。初ゑぞんごと荷屋ふうくこ。

どの道を志ゆうどく残もれく。門ふ多ずこ道ゝとゝし。
まこふこ巷ふく出ふも二森く。夜みもけすれの来乃
めし。ろこゞ元是の板橋や。川ら知ひ　そぞんこ。
勧力こふく強も流しなれ里ちく。家どわくこう
ふるしちめ。見那をずいぶん大自生。天神さゐと
号まんと。うゝく訪れん者こうゐれ新ふうけこふ
舟をこく。なんぜん明主乃貴ゆゞこうこく向ふ
ハ死ねちづの池。又恰を丸ぐうち。角ハかこりまど。
ぞん勝がうまして類ぐうちこうこてる。者居ふ主者て。

いつゝびの祝ちをーゐ。この者のハこのふゝ。
ゆこゞなひこふくふ屋んし。蓮の葉ハ知ゐ。
地ハ戸ウ下ふハ。銀山のなる来ら育し。
やの見在を家こも。大仏さゐの御車れぞんがゐと
興をこゐー。それの下谷ハ長の見ふ。ろこがいゐこ乃
雑竜の龍よふこ。ぞこつき出りくこのうちふ
見とすゞうひゐぞ見ふろう。向ふまう森こふハ是も
むこいこぶりれ。ゆこを五こふ太腹か。命ちぞの
要性この。雑宛移を脚しいよ浪人こよ。それこふ

ようあるこハ見るかハ田舎流るるなり。何をきようかなくごたるなり。

十六 アこハテ

ようわ。

地江戸へもてめくはんせやうが。ようが市地江戸なの名ハあんちゃまたがる。名も材と言うやうが。すんこハ言ハくごたふ屋い。ぞくそで物へくらんなるこ。

柳 ここるこ乃国やきいハ物見物をこ乃。金銭嘘言ち様と耳ハバワイ紛れる。言うしけ市門ハ筋遠市門こく。代表名立人組の。名ハがこ言ものべ通れね。

かの市門ハ筋の遠こ市門がこれこハ名ハを

持くごたるこ団 アこハテこ

ふ。江戸へほんでるこべいハくすぐこ。板こ

ふるこ言ハ有るが多ハ打ッす稼ぐ柳ハ

飛の毒ふ石。それなくこ。通るやくハこのんで

やるが。言うし番人ともちくなるなら稼ぐ。

持合ハ有るこ。団 アこア酒根ちくべこりちゃ

こが。ちの手こしやア酒をこんのこ実しやア查るを

買こく食こうしく残りこんこ芝ちんべこ。果物こ言ぶくが四角べこごたる中が芝く通れ

ス

屋ひ事ありて、程なくとうちの人、外さま
へ。けり。出せば、拍子に脚ハ、ほ、ゑこと、能ひんぐ者。
まゝ情へ、ちやくぶくし。法ゝくごたまと、夕乃番。
面番をすぐ通かゝ。下陣へ出。生とせぬ屋と
むりに、ぎれく、ゆうをとう。立廊ゝくえりは。
拍子ゞ能くく。あやまりく、来ゝゝ。れつゝ分
しすりく、ちやく通ゝつゝ。中ま。ちのし面番乃
前へ、ゝくさ、宮乃方ゝまく待ゝくこたまと
減しゆうふ拍子へ。紙。まじき。蓋へ。ふうけふ裏正じき。

やゝハ、ほふいき、ゝ事とおもひずんぐり。
ゝくゝ、ぐゝちふ減ゝゝ。ゝゝぶんなこんぐど
さりまゝ。いゝ。ひしく。見附一さうゝ面番乃
まへふ。ゝゝ、ちんと立りく。居まバ。幕下乃。続率ゞ。
大ゝ声ぐ通れく、中ゝ。附まバ。笠を脱く地ふ
ゝ。ゝ。ゝ拍ゝゝ。ゝこたゝ中。脱び通ゝ。
ゝゝ先の。全能嘘ゝゝ大名ハ何国の辻番
ぐゝとゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
や。青ごけゝ。ゝ異形の老僧。忽然ゝ。出。

せんぞく我ハ是。あんぢゞ沸戸の時ふ事久
敷魔ふるゝ。石地蔵なゝハ山ゝ寺人ハ沸声
ぐ曰ふハ。是を新浄るゝ事ゝ
まゝ。地蔵さん又曰ふハ。夫むゞ如来の数ゝ。夏
乃其銭を。殺ひしゝゝの沸誓ゞさん来のかゝゝ乃
穴一も去ゝまけくハ人の為。二文まけくも人の為。
三文まけ事止ふ後。夫ハ美や離苑ふ命かゝ
二番め乃。八百文ぢゝ。さんぢいくはされハ悪き
う郎ゝ。家ゝ揚ゝみゞ地人ゝ。金毎虚家ゝと

いふハ是ハ昔ふゝ。紙衣を組り。まゝと海ゞ地獄
いふハ。美田級越市ゝゝ。ハ尻谷穴ハまん大物
小法を尋ゝ。扨又ハ戸と。鰐巣大快の花ゝ斗。
扨ゝ。性ゝ晴ハ。大き形ゝ事法ゞと
喰ふ。蓋ゝの西ゝさんゝハ門ハ。ゞ郎中ふ
吹の降る妖怪有り俄ふ物成貧動ゝ。ゝさん
備ゞゝ。扨ゞ出ゝ。ゝハゞちゝ法ゝ。
すゞと。亮角盆ふ事ふゝ。少出ゝ人ゝとなゝ
ま世。水を惜ま仏ぬゝに強ゝる。又町ふハ法ふ

灯をうりす柳かげにうそ利をうり喰ふく。ちう
大きふうくま。懐噪くなる後ふハ海とて。
黒鞘を引つまく。筋くしく帰くに元雛くにいなく
武者も是ふハ閉口す。而後この化ものに医生
太刀うちハなすぬ友。寝るゞ上計しみ寄り
貉出く四百人乃人くを化くと。母ゝ賞ぞくちも
せぬかひ門ゞ。軒是ふ引ゝ寄。磯ゝ
計乃ゞ。又二年ざしハ街者ゝ化而ゝ魔而を
郷相する事。変宮る時ハ。徐ふまりふ毛せんと

化くいびくなれくちくてんすゝ。まゝ
上ゞなるハ。白むくれ母ゝ出ハ。夜くゝ丸角ん
門ゝり出く。志ゝ乃ゝ母ゝぞくゝ母ちまち。名法立
乃ゝ家ん乃ゝなゝ門く。小ふをけゝく丸切大きに
黄金乃ゝ毛をゝ也。夜明あゝ切がゝ志ゝ。まゝ
母門ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ化ものゝ有。門ゝれく耳も云。
死人乃ゝ乃ゝを吸ひ。計大ゝを喰ふ。むゝハ医師ふ
化く出。今ハゝの化ゝ出。者ハ勿論助ゝ陰る。
とゝりゝひ門ゝ乃。安房嶺とゞう。人の囲夫と

ねとらふ。まさ切嬰ハ西き様有りく。年季や
ろ〳〵ハ。折ゆのうとめをしうき。市中ハ繁くく
油物をはり。或ハ地蓋だちの陰蓋をはり〳〵。而
のち裏ノ桜ぐ毛はれ。ふる母引く鬼ハ出く
山梅さ刈とく。地ぐて出意ろノ中ぐひ。湯ハ出ばる
〳〵有〳〵ばゆ薬ハかり。ちろ〳〵ふ油ぐどき
才六八一日ことあるすむ事なんや。ちしはのう〳〵
病を療ぜんとわ用せハ。水道ノあるく大通数
五六年服用すふ時ハ毒ちきち不通病平愈て

大通至城ノ道を濁ん事歎ハ。悔しむ
通しをふ。濁ハりろへば城ふりう

大通 保役

大通名ハ掃。ゆハ蓋ろり。ていか仮〳〵之生号
穴〳〵ハ口ノ人。一寸〳〵蓋古傳つるし業を
如津多酒屋事ろいろ受。其弱ろ〳〵。色
去ふく。暴すど通り。壷ノ益〳〵。年ハ不解侍
ちやま。コウ〳〵ちやノ人相書の様ぶ。俳〳〵と

中車坂三藩。門ゝ水ハけ也。凡名代の美祇像
乃陽きく、蕾を切りぬひく。張りよいしゝかれ
偶人乃ごゝ。髻ハ蘭の尾乃ごゝ。眉ハ小月
乃ゝ上ゝ乃ゝゝハ中剃ゝ毛すゝけつゝく。
赤坂乃遊ゝ行ゝ鬢いん。羽織乃ゝ小袖ふ
ゝ常ゝゝく。後ゝゝ見れバ常細解ゝ乃ゝ性
ゝ陽ふ。ゝゝの仮髪ゝゝ服ふゝれ帷ゝ貴を
ゝらん事を習ふ。部ゝゝ三面乃ゝ若男ゝ三。家ゝ
大の陣ゝ御ゝんすれゝゝ乃ゝすゝ家ハゝゝ切ゝ常。

扇屋ハゝゝ茶屋ゝん別ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ流。
恵乃屋ゝ也。御乃帳乃色ふどんぶゝゝれ
紙袋。見ゝゝゝゝゝゝ絃のゝゝ付。金ゝゝゝき
銀きゝゝ。一寸先ハ屋ふゝゝ。ゝゝひと硯ひと吸
口乃。宗ハ八百八町ふ通ふ。横れ呉ふゝゝく。大通と
称ず。文大家ふゝゝく。三角ゝゝ夜鷹ふ至る
まゝゝゝゝふ呉ゝゝ賞つゝすを出すゝゝ。
大通ゝの絃を事ゝゝて。扇屋のゝんゝゝ二千八
百。俗父乃ゝんが七十二ふ。ゝゝ三人乃色八人ゝ家

八寸とかうかう、世〻八酔〻〻十六人、是を合て
万八州ふうれれし。或時まさ帝陵を拝する。
ゆ〻〻侍をなまむ。侍八病なれども出侍家病。
宮殿の額よりむつうき。新仁大ふ出てうく。終ふ
まく。去りのかたに神ことれ。大ふ羅ふ殺する。
殺月也既ふぐんく八今日明かるものの吋ふ新び。
昔説今月書様に孫一事を思ひ暴つく。
悔然として薛殺の職を作つく曰。七月塔ろ
見初。大通同聞と。春八神気と搖く屋あば

墨水に浮へ墨系の白に鷺ど。招き棹を敲ど
通二三不雲をとるかの事。鶯の鳴声ぐ。めり安を宿ひ
鳴口称ふ鶯かく。唱ふ廊下ふ乗り。圓の外
ふ徘徊〻〻。忌の背ふ舟式霧ふく而居へぐ
上世ふ付。通ど順。宮ふ杉〻〻。折ふ生〻〻〻。
此ふ鳴語も形。如是わ思。娼婦ふ顔を
窺ふに。蛾眉額ふ撲ふ。弱ふ風ふ立ふ。
娼も寄ど。鬟ふ由乗ふ雨を側。同〻〻宮客
乃。通ど不通を察〻。儚〻〻〻て板を叩

の渦巻に上りて、雷鳴の如く、雷の如く、雷の如く、雷

食しを苦味履と云くまくらし夜半ねかつる夏
いくんぐ跳ぐ寝ふ。又醸ふ醉めくなくなんを
ぼき。鐸に行く餞をもふ。まくに世の餘毒ふ
ぬくぞや。然ばと誰かかまに苦る。生民のてがい域
也今吾とまと娼門ふ接び。妓娼と妻と
離妓と妻と之妻縛のくふ寝く餞ハう食
今吐今下ぬう。席に客前曽り。膳ふ美女四
乃渦乃酒ハ乃如く。婦中乃まめつりけど。死
ぐと。我ら兵に只一夜なる事をかれしこ居讀

四十一

寃なるふ事をつ読む千金銭懐ふ。一時ふ擲姉媚
を擲く長ふ終ハん。不浴かれハぬ夏を知らく。佳節
を裏富了託す。大通曰。男下を又通と不通と
銭に子ふ也。吏活に擲ふ角ハ曲ぐ嘗く
不可絶交。死に擲ふ角ハ絶ふ交深事那に。
蓋その懐人に。男をとりれバ一角も尽乃
磨盤のごく。通人ふに是をとりんまハ千両も
費乃杜牧もちし。又伸をとり羨まん。吏青楼の命
娼婦に各客賀う。我ふ 妻又亜まれハ要で買ふ

事を導人只情ふかゝび吹まて。こゝ浪花婦豆腐屋婦
やゝ一角婦やゝ南瀧婦と。格子のかゝ者日々するのを。
只こゝろふゝ法楽也。何で門浅草ふる事なんや。
故ふ投書偶のごゝ面を見ゝ而後賣婦と是試
買人をすれゝと銭れ。是を訪ゝ賞ゝ。是大義の一要銭
坊ゝ。只我ゝゝと斗世ふ解する而也。雪ふを打ゝ回。コイツア
世ふ病ひと。是ゝ大通ふすむ。大通ふすでゝ嬉解で。
土産犯藤ゝ。相俱ふ枕をかゝゝ。勝ゝ
乃蠱ゝふふ地和ゝず。

U5413